

■ 概況

当週（10月30日～11月5日）の国際石油市場は、米中首脳会談（3日）の合意への期待感、OPECプラス会合における12月の増産と1～3月の増産停止の合意（2日）、米・ベネズエラ間の緊張、ウクライナのロシア製油所攻撃などを主な要素として、前半堅調、後半軟調に狭い範囲で推移した。

NYのWTI原油先物市場は、10月30日に小幅続伸の60.57ドルで始まり、4営業日続伸で週明け3日には61.05ドルまで上昇したが、4日反落、5日続落の59.60ドルと、節目の60ドルを割る水準で終わった。

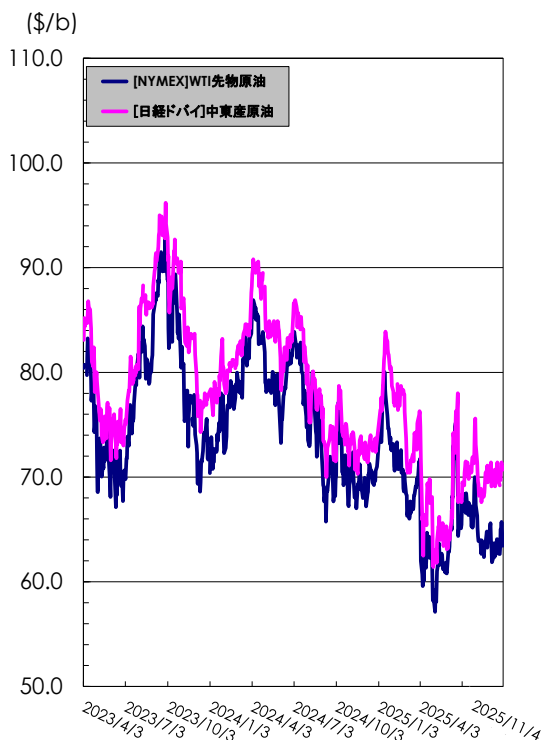
また、中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（10月23日～29日）は65.80～68.82ドルの範囲で推移したが、当週は、10月30日65.70ドル、31日66.30ドル、11月3日休場、4日65.90ドル、5日65.80ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は、前週（10月23日～29日）151.50～153.00円の範囲で推移したが、当週は、10月30日152.80円、31日154.10円、11月3日休場、4日154.38円、5日153.49円だった。

財務省が10月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は68,917円/KLで前旬比951円/KL高、ドル建てでは74.02ドル/Bで前旬比0.75ドル/B高、為替レートは1ドル/148.04円。

そのような中で、11月4日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円高、軽油も同0.1円高、灯油は同1円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.6円だった。11月6日～12日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されているため、引き続き、定額分のみ、ガソリン・軽油は10.0円、灯油・重油の場合は5.0円となった。

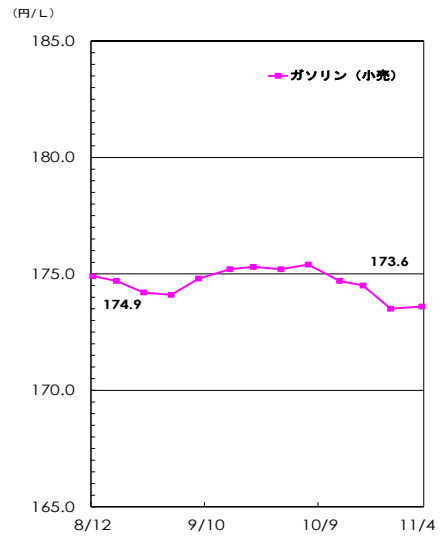
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/26～11/1	2,738 ▲6	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	79.1 ▲0.2	▲-
	原油在庫量 (千kl)	11/1	10,733 ▲706	▲-
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	11/4	66.30 ▼-2.50	▼-6.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/3	61.05 ▼-0.26	▼-10.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月上旬	74.02 ▲0.75	▼-6.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,917 ▲951	▼-4,686
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.04 ▼-0.56	▼-2.19
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/4	155.10 ▼-1.10	▼-2.05



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/1	1,607	▲ 3	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/28 ~ 11/3	80.0	▶ 0.0	▲ 80.0
		(TOCOM/中部)	10/31	▼ -2.0	▼ -1.9
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/4	▲ 0.1	▼ -0.9

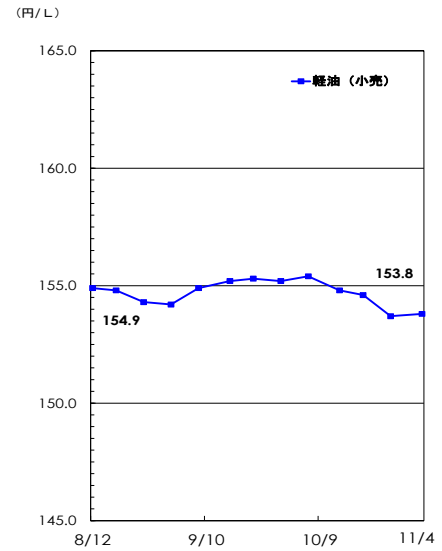
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

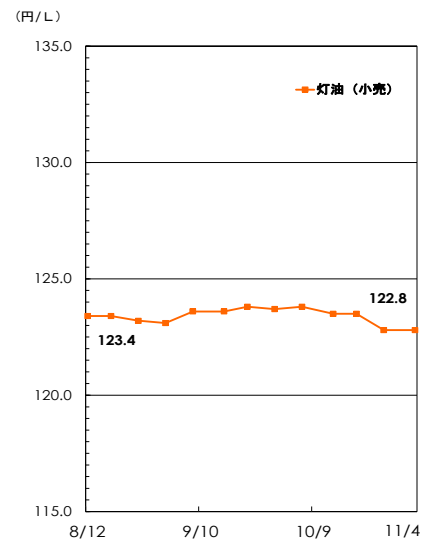
軽油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/1	1,449	▲ 19	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/28 ~ 11/3	80.9	▲ 0.2	▲ 0.9
		(TOCOM/中部)	10/31	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/4	▲ 0.1	▼ -0.5

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/1	2,604	▼ -139	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 10/28 ~ 11/3	84.5	▲ 0.5	▲ 84.5
		(TOCOM/中部)	10/31	▶ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/4	▶ 0.0	▲ 5.6



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（10月23日～29日）のNYMEX・WTI先物市場は、60.15～61.79ドルの範囲で推移した。

当週10月30日は、この日開催された韓国釜山での米中首脳会議で、中国のレアアース輸出規制を停止することに合意するなど、米中貿易摩擦が緩和されるとの期待感から、小幅ながら続伸した。ただ、米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長から、12月の追加利下げについて消極的発言があったことで、失望感から上値は重かった。12月物終値は前日比0.09ドル高の60.57ドル。

週末31日は、朝方、中国の10月製造業景況（PMI）指数が悪化したとの発表があり、また、サウジが12月のアジア向け出荷原油価格の調整金を引き下げるとの観測、さらにOPECプラスが2日開催予定の会合で12月分の増産継続を合意するとの観測が高まったことから、売りが先行したが、米国の、麻薬貿易に関連するベネズエラの港湾施設を特定し、軍事攻撃を計画しているとの報道で、ベネズエラ石油への供給懸念、緊張が高まり、一転上昇、3日続伸した。12月物終値は、前日比0.41ドル高の62.98ドル。

週明け11月3日は、2日のOPECプラス有志8カ国によるWEB会合で、12月の増産について、10月・11月に続き、13.7

万BDの増産を継続するものの、来年1～3月については増産を停止する旨合意したことから、需給緩和拡大懸念が後退、小幅ながら、4営業日続伸した。さらに、ウクライナ軍はドローン攻撃でロシアの石油施設に損害を与えたとの報道で、供給懸念、緊張が高まったことも、上昇要因。12月物終値は前週末比0.07ドル高の61.05ドル。

4日は、OPECプラスが年明けから増産を停止するものの、需給緩和の拡大懸念は強く、その旨の観測報道があり、また、米国の政府封鎖が長期化、景気への懸念がある中、FRB幹部の利下げ消極発言も相次ぎ、4営業日ぶりに、反落した。さらに、為替相場のドル高で、原油先物の割高感から、売られた。11月物終値は0.49ドル安の60.56ドル。

5日は、米国の前週末の石油在庫が、原油は予想を上回る積み増しに対し、ガソリンは予想を上回る取り崩しで、売り買いは交錯したが、需給緩和感の継続、米英の景況感の軟化、さらには、利益確定売りなどもあり、続落、節目の60ドルを割った。12月物終値は0.96ドル安の59.60ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の11月5日発表の10月31日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比520万バレル増と市場予想（60万バレル増）を大きく上回る積み増しだったが、ガソリン在庫は470万バレル減と市場予想（110万バレル減）を大きく上回る取り崩しで、買いと売りが交錯する結果だった。

EIAによると、11月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.6セント高の1ガロン3.019ドル（124.2円/ℓ）と2週ぶりの値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比3.5セント高の1ガロン3.753ドル（152.2円/ℓ）と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、10月31日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比6基減の414基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、10月26日～11月01日に休止したトッパー能力は41.9万バレル/日で、前週に対して±0.0万バレル/日であった（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は273.8万klと、前週に比べ0.6万kl増加。前年に対しては11.5万klの増加。トッパー稼働率は79.1%と前週に対して0.2ポイントの増加、前年に対しては3.3ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

11月1日時点の在庫は、前週に対してガソリン、軽油は積み増し、ジェット、灯油、A重油、C重油は取り崩しとなった。

ガソリンは160.7万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては9.2万kl少ない。

灯油は260.4万kl、前週差13.9万kl減。前年に対しては11.3万kl少ない。

軽油は144.9万kl、前週差1.9万kl増。前年に対しては3.5万kl少ない。

A重油は78.9万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては2.5万kl多い。

C重油は158.1万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては22.2万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/1)	前週 (10/25)	前週比	
ガソリン	1,607	1,604	▲ 3	(0%)
ジェット燃料	879	884	▼ -5	(-1%)
灯油	2,604	2,743	▼ -139	(-5%)
軽油	1,449	1,430	▲ 19	(1%)
A重油	789	800	▼ -11	(-1%)
C重油	1,581	1,596	▼ -15	(-1%)
合 計	8,909	9,057	▼ -148	(-1.6%)

5 国内/元売会社製品卸価格

10月28日～11月3日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸建値はわずかに値上がりしたものと見られる。また、9月4日以降、補助金は、定額(揮発油・軽油は10円、灯油・重油は5円)で据え置かれていることから、補助金込みの実質卸価格はそのまま小幅に値上がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

11月4日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円高の175.6円、軽油も同0.1円高の153.8円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同1円高の2,211円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは同横ばいの122.8円)。ガソリンは4週ぶりの値上がり、軽油も4週ぶりの値上がり、灯油も4週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが20府県、横ばいは4県、値下がりとは23都道府県だった。全国最安値は愛知県の167.4円、その次は埼玉県の167.8円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.0円。最も値上がりしたのは山形県(前週比2.0円高)、最も値下がりしたのは滋賀県(同1.3円安)だった。

次回調査時(11/10)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/4)	前週 (10/27)	前週比	直近高値	
レギュラー	173.6	173.5	▲ 0.1	2023/9/4 2025/4/14	186.5
灯油	122.8	122.8	→ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	153.8	153.7	▲ 0.1	08/8/4	167.4

小売価格

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第32号) の公表は、11/14 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。